1 Ep－6　　ビジネスマンのカジュアルデーに対する意識と行動

○加來卯子*　樋泉俶子**　上野亜希子*3　中川早苗*3
(*西南女学院短大，**光華女子短大(非)，*3奈良女大)

【目的】週末にはカジュアルな服装で出勤できる「カジュアルデー」を採用する企業が、ここ数年少しずつ増加している。ビジネスマンの仕事に対する能率化、活性化をはかるにあたり、企業ではフレックスタイムの導入、休暇の長期化など規制緩和を促進する柔軟な環境づくりが進められているが、カジュアルデーもその一端を担うものといえよう。新たな試みともいえるカジュアルデーの今後の動向を探るために、本研究では、カジュアルデーを実施している企業で働くビジネスマンを対象にカジュアルデーに対する意識や行動について調査をもとに明らかにするとともに、今後、職場で働く男性にとって望ましい服装スタイルのあり方について検討を試みた。

【方法】カジュアルデーを実施している企業で働く男性を対象に、1996年11月～12月、配票留置法による質問紙調査を実施した。配布数260票、有効回収率65.4%であった。主な調査項目はカジュアルデーに対する意識、カジュアルデーの服装および着装時の留意点、背広・ネクタイスタイルに対する意識、職業観などであり、単純・クロス集計、因子分析、クラスター分析により分析を行った。

【結果】カジュアルデーに賛成であると答えた者は全体の82.3%を占め、職場の雰囲気が明るく、自由になったなどの肯定的な意見が多く、ビジネスマンに支持されている様子がうかがえる。カジュアルデーには着心地が良く、自分に似合っている服装の他、季節感があり、個性が主張できる服装が取り入れられている。年代差は見られるが、全体では上着にジャケット(55%)、中にワイシャツ(68.6%)、下衣はチノパン(50.5%)が多く、ネクタイをつける者は23.5%にとどまっている。また、職業観、背広・ネクタイスタイルに対する意識とカジュアルデーに対する意識との関連について因子分析およびクラスター別クロス集計を行った結果、相互に関連が認められた。